

東京国際空港（羽田空港）の新しい滑走路（D滑走路） ～千葉県産山砂の陸上運搬が終了しました。～

記者発表資料

国土交通省は、我が国空港ネットワークの拠点空港として極めて重要な位置を占める東京国際空港（羽田空港）において、新たに4本目の滑走路となる『D滑走路建設工事』について、平成22年10月末の滑走路の供用開始を目指し、24時間365日の昼夜連続施工により最速で工事を進めています。

この度、平成19年4月から実施してきた千葉県産山砂のダンプトラックによる陸上運搬が、平成22年2月27日に全て完了し、約3年間と長期に渡った山砂の陸上運搬が終了いたしました。

D滑走路の埋立部（注1）の構築にあたっては、千葉県中西部から産出される山砂を使用し、多い月には、1日あたり約7,000台のダンプトラックが一般道路及び高速道路を利用して積み出し岸壁（木更津港・袖ヶ浦港）まで運搬をしていました。

山砂の運搬にあたっては、山砂安全連絡会（注2）の定期的な開催により地元の意見を踏まえた運搬計画を策定・実施するとともに、環境モニタリング、安全パトロール、道路清掃等を継続的に実施し、ダンプトラックの走行に伴う沿道地域に与える影響を極力減らす措置をとりつつ実施を行ってまいりました。

山砂調達においては、約3年間という長い期間での実施であり様々な課題もありましたが、地域行政及び地域の皆様の多大なご理解・ご協力により陸上運搬を無事遂行することができました。

（注1） 新設する滑走路島の全長約3,000mのうち、約2,000mが埋立構造、残りの約1,000mが多摩川の流れを阻害しない栈橋（ジャケット）構造となります。千葉県産の山砂は滑走路の基盤となる埋立に約2,000万m³使用されました。

（注2） 羽田再拡張D滑走路建設工事に使用する山砂の運搬に関し、千葉県、関係5市、千葉県警、国土交通省関東地方整備局、同省関東運輸局千葉運輸支局、羽田再拡張D滑走路建設工事共同企業体および羽田空港山砂納入安全協議会らにより構成し、安全かつ環境に配慮した山砂の運搬計画などについて審議・策定するために設けられた会議。（これまでに計7回開催）なお、羽田空港山砂相談窓口については、平成22年2月27日をもちまして閉所させていただきました。

平成22年 3月 1日（月）

国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所

同時発表記者クラブ

竹芝記者クラブ 横浜海事記者クラブ 神奈川建設記者会
都庁記者クラブ 千葉県政記者クラブ 東京航空記者会

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所 D滑走路プロジェクト推進室

前任建設管理官 まつもと しげる 松本 茂 環境担当係長 きじま くにお 木島 久仁男

住所 東京都大田区羽田空港3-5-7 メンテナンスセンターアネックス5F

電話 03-5756-6575

HP <http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/haneda/haneda/index.html>